



「顔身体学」領域主催公開シンポジウム

LOOKISM



ルッキズム

8月6日(土)14時～17時

会場: 國學院大学渋谷キャンパス 常磐松ホール(参加費無料)

近年、外見や容姿をめぐる発言へのまなざしが一層厳しさを増しています。本来は見た目が評価されるべきではない場面で見たくが評価されてしまう「ルッキズム」(外見に基づく差別)への注目も高まり、昨年末には『現代思想』誌上で「ルッキズム」の特集も組まれました。その一方で、魅力的な外見を得たいと思う人や履歴書に顔写真を求める企業がなお数多く存在します。ここには、心理学において議論されてきたように、外見を内面や性格を表すものとして捉える人々の知覚の傾向性が関わっているように思われます。

顔・身体学(新学術領域研究科研「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築」)は、顔と身体の変現や知覚をめぐる学際的な研究を試みてきました。本シンポジウムでは、顔身体学の新たな展開として、顔身体知覚に伴う外見の評価やそこに含まれるルッキズムのリスクをいかに考察していくことができるかを検討したい。

登壇者に、国内のルッキズム研究を牽引してこられた西倉実季先生、アルビノ当事者の視点から「見た目問題」について研究されてこられた矢吹康夫先生、顔の印象や顔で人が判断できるという信念について研究されてこられた鈴木敦命先生をお招きします。対面での開催になりますので、どうか奮ってご参加ください。

登壇者: 西倉実季(東京理科大学・社会学)

「ルッキズム」概念とその可能性」

矢吹康夫(立教大学・社会学)

「外見なんてどうでもいいところで、外見が問題にされる日本社会: 校則による頭髪規制、履歴書の写真、職務質問などなど」

鈴木敦命(東京大学・心理学)

「顔で人を判断する人の心理学」

司会: 小手川正二郎(國學院大学)

主催: 科研費新学術領域(研究領域提案型)
「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築—多文化をつなぐ顔と身体表現」

お問い合わせ: contact@kao-shintai.jp